

キャンパス
で

国際交流しよう！



一橋大学生のための
国際交流ハンドブック



キャンパス で 国際交流しよう！



一橋大学生のための
国際交流ハンドブック

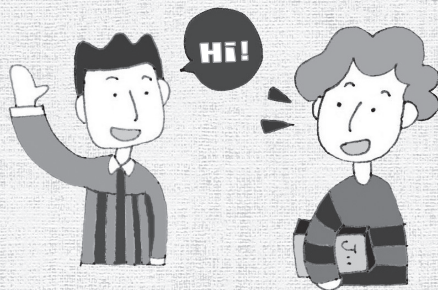
はじめに

キャンパスで国際交流しよう！ 一橋大学生のための国際交流ハンドブック



目次

キャンパスで、どんな留学生と出会えるの？	P04
コミュニケーションのヒント	P06
英語で授業を受けてみましょう (HGP)	P14
ランゲージコミュニティに参加してみませんか？ (LC)	P16
留学生の日本語学習サポートをしてみませんか？ (チューター制度)	P18
国際寮のサポートスタッフになりませんか？ (学生宿舎スタッフ制度)	P20



「キャンパスで国際交流しよう！一橋大学学生のための国際交流ハンドブック」を手にとっていただき、ありがとうございます。

一橋大学では、ここ数年、本学に在籍する外国人留学生は増加の一途をたどり、2019年度秋には922名となり、過去最大となりました。一方で、2019年度に海外留学した本学の学生数も、短期留学が326名、長期(半年以上)の協定校への派遣留学が102名となり、こちらも増加傾向にあります。このような学生派遣・受入の成長の陰には、キャンパス内で行われている様々な活動があり、そこに携わる多くの学生が国際交流の場を支えています。

本書は、国際交流をやってみたい、関心があるけれどどうしたらいいのかわからない、という学生の皆さんに、キャンパス内で提供されている国際交流の機会を分かりやすくリストアップして紹介しています。また、異文化間コミュニケーションの観点から、国際交流の場面で起こりうるケースを掲載し、交流の一步を踏み出せるヒントとしてまとめました。

このハンドブックに掲載されている情報以外にも、本学には国際交流に関連したサークル・ボランティア活動をする団体が、学外には市民の方々による国際交流ボランティア団体が複数存在します。こうした環境を活かして各自の興味・関心を広げ、国際交流を通じて大学生活をより充実させてみてはいかがでしょうか。

学内外の国際交流についてさらに知りたい、また、本書について質問したいことなどありましたら、国際教育交流センター留学生・海外留学相談室に気軽にお越しください。アドバイザーが、皆さんをお待ちしています。

留学生・海外留学相談室

場所：東キャンパス国際研究館2階

開室時間：月～金曜日(休講日を除く)

(10:15～13:15、14:15～17:15)

Tel: 042-580-8168

URL: <http://international.hit-u.ac.jp/jp/cgee/advising/index.html>



本書との出会いが、皆さんの大学生活をより豊かにするきっかけとなりますように。

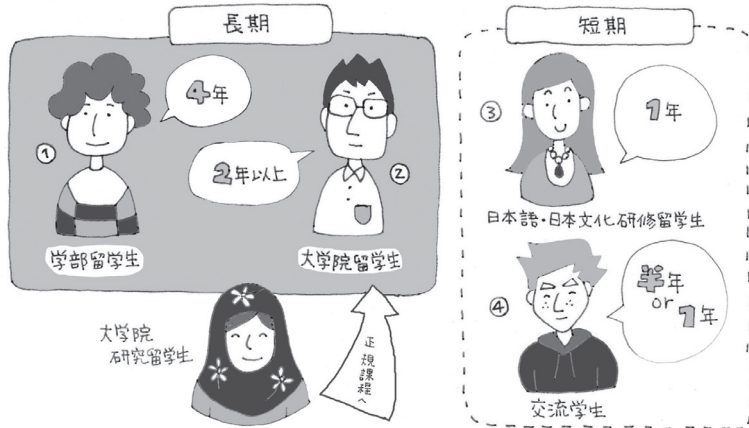
2020年3月

一橋大学

国際教育交流センター・学務部

キャンパスで、 どんな留学生と出会えるの？

一橋大学には約1,000人の留学生が在学していますが、一口に「留学生」といっても、長期で学ぶ学生もいれば、短期で学ぶ学生もいます。また、それぞれの留学目的もさまざまです。まずは、みなさんが通うキャンパスで、どのような留学生が学んでいるのか、知ることから始めましょう。



国際交流を円滑に楽しむために、留学生と言語の関わりにも目を向け、留学生の背景を知ることが大切です。一橋大学では、日本語や英語による専門科目だけでなく、留学生を対象とした日本語の授業も開講されています。そこで、一橋大学が提供している「日本語教育プログラム」について、概要を見てみましょう。

●日本語教育プログラム

主な教室：東キャンパス 国際研究館

初級、中級前半、中級、中上級、上級前半、上級後半の6段階の習熟度レベルを設け、年間70以上にも及ぶ科目を提供しています。多くの留学生が自分に適した科目を履修し、日本語学習に励んでいます。



～長期：学位取得を目的とした留学～

①学部留学生 学部1年から4年まで在籍する留学生です。入学前から日本語で受講する力を備え、日本語教育プログラム上級レベルに達している学生が多く見られます。なかには、留学生のための日本語教育プログラムを必要としない学生も含まれています。ただ、日常会話は流暢な学生でも、アカデミックな日本語を必要とされる学業においては、チューター制度(P.18参照)などサポートを求めているかもしれません。

②大学院留学生(大学院入学を目指し在籍している研究生を含む) 修士課程は最短2年、博士課程は修了まで最短3年(6年を限度とする)在籍する留学生です。日本語で受講することを前提に入学する留学生が大半ですが、英語による大学院プログラムに在籍する留学生は、入学時に日本語能力を必要とされていません。そのため、大学院留学生の日本語のレベルは様々です。日本人学生によるサポートが得られる「論文チューター制度」(P.18)を利用しながら、日本語で論文を執筆し、書き手としても自立していく留学生の姿が多く見られます。

～短期：学位取得を目的としない留学～

③日本語・日本文化研修留学生 通称「日研生」と呼ばれ、母国等において日本語と日本文化を主専攻した経緯を持ち、日本大使館による選抜を受けて留学した留学生です。受け入れ時期は原則として9月で、学部後期課程に1年間在籍します。日本に身を置き専門性を高める傍ら、これまでの学習経験を活かしたいと希望する学生が多く、学内交流においても活躍が期待されています。

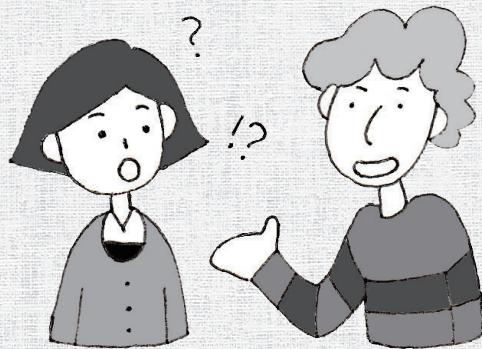
④交流学生 交流学生とは、一橋大学と交流協定を締結している海外の大学から派遣される留学生です。交流学生の受け入れは、春夏学期(3月)または秋冬学期(9月)に開始され、半年または一年間の在籍となります。日本語学習経験を全く持たない学生も含まれており、ここ一橋大学で日本語学習をスタートさせる留学生もいます。日本ならではの経験を得ようと異文化交流の場にも積極的に参加し、キャンパスで出会える学生との交流を待ち望んでいる声が聞かれます。

国際交流のためにと英語を磨く意識は大切ですが、日本語でも、第二外国語で学んだ言語でも、入り口は色々あるのかもしれませんが。

「交流」って どうすればいい？ —コミュニケーションのヒント—

一歩踏み出してみませんか？

大学には、言語や生活習慣や考え方が異なる環境で過ごしてきた人びとが集まっています。いろいろな違いに刺激を受け、視野を広げ、大学生活を豊かにするために、異文化コミュニケーションのヒントを紹介します。



●●●●●●●●●● 好奇心ってけっこう大切！ ●●●●●●●●●●

みなさんは周りの留学生がなぜ日本へ来ているのか、何を勉強しているのか、どんな国で生まれ育ち、日本のどんなことに興味を持っているのか、想像できますか？みなさんと同じように、留学生一人ひとりにそれぞれのバックグラウンドがあり、これまで違う世界で過ごしてきた者同士が同じ時に同じキャンパスで学んでいるのはとても素敵なことです。まずは身の周りの留学生に興味を持ってみることから始めてみましょう。

異文化交流 ケース.1

日本人に日本語で話しかけてみたら、
相手が黙り込んでしまった…。

長期の留学生は、日本語で授業や試験を受けて論文を書きます。短期の交流学生も、日本語を勉強している人が多くいます。「留学生・外国人だから英語で話しかけない」と決めつけるのではなく、日本語で話してみよう。とはいえ、日本語の母語話者(ネイティブ・スピーカー)に囲まれて育ってきた人は、非母語話者の話す日本語に慣れておらず、ごちなく感じてしまうこともよくあります。せっかく留学生が日本語で話しているのに、黙り込んでしまったり…。すると相手も、「あれ？私の言ったことおかしかったかな？やっぱり日本語が変なのかな」と不安になってしまいます。



アドバイス：「やさしい日本語」を使おう

留学生がどうかにかかわらず、自分だけが一方的に話しすぎず、相手の反応や表情から理解度を確認しつつ会話することが大切です。話が通じていないと感じてもすぐに諦めず、別の言葉やフレーズをいろいろ試してみましょう。相手の言ったことがよくわからないときは「〇〇っていうこと？」など言い換えてみるといいでしょう。非母語話者に伝わりやすい日本語を心がけることは、母語話者にとっても簡潔な表現を使う練習になりますし、他言語の学習にも役立つでしょう。

**異文化交流
ケース.2**

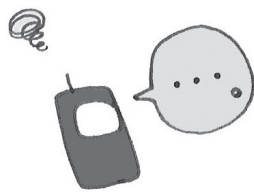
食事をごちそうしようとしたら、「割り勘でいいよ」と断られてちょっとショックでした。

東京の大学生のあいだでは、特別なイベントを除いて友達同士でご飯を食べに行ったときは割り勘がふつうかもしれません。しかし、友達同士だったら毎回割り勘にはせずに、順番にごちそうしあうのが一般的な場合もあります。自分たちのやり方を説明して、相手のやり方も聞いてみましょう。

**異文化交流
ケース.3**

「また遊ぼうね」と言われてしばらく経つのに返事が来ないんです…。

「また遊ぼうね」と約束して、すぐに連絡をとる人もいれば、数カ月空くこともありますよね。次の約束がいつ来るのかは、個人や文化によってさまざまです。「約束したのに連絡をくれない」などと自分の基準で判断せずに、自分の感覚と相手の感覚を確かめてみましょう。

**アドバイス：「みんな同じ」と想定しない**

「同じ人間だから」といって、誰もが自分と同じように物事を感じたり行動したりするわけではありません。支払いを誰がするのかといった習慣や連絡する頻度、うれしい時や悲しい時の表情やジェスチャーは、その人の文化的背景によってさまざまです。自分にとっての「当たり前」を基準にせず、相手にとっての「当たり前」も探っていきましょう。

**異文化交流
ケース.4**

「お箸上手ですね」

「私はお酒を飲まないのに、パーティーで『ドイツ人ならビールが好きでしょ？』と言われました」。『アメリカでもふつうにお箸を使っていたのに、日本ではいつも『お箸上手ですね』と言われます』。こうしたコメントは一見目くじらをたてるほどでもない、無害な会話に見えるかもしれませんが、何度も同じことを言われるとうんざりしてしまいます。自分自身ではなく、出身国で判断されているんだな、という印象を相手に与えてしまうのです。さらには、〇〇人はうるさい、〇〇人は怒りやすいなど、ネガティブな先入観にもとづいて行動を起こすと、差別につながるようになります。

**アドバイス：ステレオタイプに注意しよう**

「みんな同じ」ではないとしても、違いのあり方は多様です。私たちはみな、身の回りの世界を理解可能にするために、先入観とステレオタイプにもとづいて考え、行動しています。ステレオタイプは私たちの「当たり前」を形作っています。さらに、例外は例外として片づけられ、型にはまったケースが記憶に残るので、ステレオタイプは根強いのです。これはある程度仕方ないことですが、自分たちのステレオタイプを自覚したうえで、目の前の相手を一個人として尊重して、コミュニケーションをとるようにしましょう。

**異文化交流
ケース.5****授業中に発言しているのは留学生ばかり...
日本人は主体性がない？**

大学では、大教室の講義もあれば、さまざまなアクティビティが含まれる授業や議論を重視するセミナーもあります。最初のうちはなかなか発言できなくても、留学生を含む多様なバックグラウンドを持つ人たちと一緒に授業に参加していると徐々に慣れていくでしょう。授業中に発言するだけでなく、じっくり文献を読んだり講義や友人の発言をしっかり聞くこともアクティブ・ラーニングです。いろいろなスタイルを試しながら、自分らしく主体的に学ぶスタイルを見つけましょう。

**アドバイス：自分の基準で評価しない**

私たちは、これまで慣れ親しんできた基準をもとに、相手を評価する傾向にあります。相手のことをきちんと理解する前に、良い・悪いといった判断を下してしまいがちなのです。授業に対する「主体的」な取り組み方にもさまざまな習慣・価値観・評価基準があります。急いで価値判断を下すのではなく、違うやり方にもオープンに挑戦してみましょう。

**異文化交流
ケース.6****大学に入ってなんだか自信をなくしています……**

大学に入ったばかりの新入生は、不安やストレスを感じやすい状況にあります。別の国や地方から引っ越してきた人は特にそうでしょう。クラスメイトの言動にカルチャー・ショックを受けたり、自分に自信をなくしたり、相手に合わせようとがんばりすぎて疲れてしまったり…。そんなとき、「みんな同じ」と思いこもうとしたり、ステレオタイプを当てはめたり、相手や自分を責めてしまいがちです。

アドバイス：自分のストレスに向き合おう

こうした反応は、新しい環境に置かれた人にとっては珍しくありません。自分がストレスフルな状況にあることを認めながら、焦らずに慣れていきましょう。最初は新しい環境がとにかく楽しくても、しばらくして落ち込んでしまうこともあります。アップダウンを繰り返すことは、異文化に適應するためのプロセスにおいて、よくあることなのです。

大学は、さまざまな他者が、学生という対等の立場とともに学ぶ場です。お互いの違いを認めながら、似ていることや共感できることも探してみましょう。異文化でもそうでなくても、相手を尊重し、気負いすぎず、落ち着いてコミュニケーションをとることが第一歩です。自分から交流するのが難しいと感じたときは、ランゲージコミュニティ(LC) (p.16)やチューター制度 (p.18) など学内の取り組みをきっかけにするのもいいでしょう。異文化交流や適應で悩んだ時は、留学生・海外留学相談室に来てください。

[参考文献] 庵功雄(2016)『やさしい日本語：多文化共生社会へ』岩波新書。
Barna, L.M. (1994). Stumbling blocks in intercultural communication. In L.A. Samovar & R.E. Porter (Eds.), *Intercultural communication: A reader* (7th ed., pp. 337-346). Belmont, CA: Wadsworth.

COLUMN

知ってた？ 留学生が学内で一番集まる場所！

交流ラウンジをのぞいてみよう♪

東キャンパスの奥にある「国際研究館」という建物を知っていますか？

この建物にある国際教育交流センターでは、留学生のための日本語の授業の多くが行われており、休み時間にはいろいろな言語が飛び交っています。また、同センター内の留学生・海外留学相談室は、留学生の生活・勉学等に関する相談だけでなく、日本からの海外留学に関する様々な情報の提供や留学相談のサービスも行っていきます。

その国際研究館の1階には、「交流ラウンジ」と呼ばれるフリースペースがあり、毎日多くの留学生の交流の場となっています。休憩時間に軽食をとったり、友人と談笑したり、日本人学生と留学生とのチューター活動をする場として利用されています。また、水曜日・木曜日のお昼休みには、Language Community (LC) による言語交流の場も設けられています (LCの具体的な活動については、16ページを参照ください)。

多様な文化的背景を持つ学生たちと交流を持ってみたい、LCの活動に参加して、言語を通じた交流をしてみたい、という方は、ぜひ交流ラウンジに来てみてください。LCコーディネーターの学生が交流をリードしてくれるので、気軽に参加できます。

交流ラウンジに来てみると、たくさんの多様な学生が一橋大学で学んでいることを実感できるはずですよ。ラウンジには、地域の国際交流ボランティア団体のイベント情報、海外留学や研修に関する情報も掲示されています。ぜひ気軽に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



COLUMN

「会話」のポイント！

思いやりの態度をもって話してみよう！

会話において重要なのは、相手を思いやる姿勢、相手に関心を持つ姿勢です。本コラムでは、会話のポイントを「やさしい日本語」(庵, 2016)より抜粋しました。

★説明は短く簡潔に

簡潔に話す方が、聞いていて理解がしやすいものです。

★会話の途中で「分かりますか？」と確認する

会話は文章と異なり、相手の理解度を確認しながら話すことができます。長い説明のときでも、その都度確認しながら進めます。

★分かっていないと感じたら、別の言い換えを行う

理解していないと感じたら、どんどん別の言葉で言い換えてみます。
例) 公共交通機関を利用ください → バスやタクシー、電車で来てください

★相手の表情や反応を見ながら話す

会話では相手の態度や表情からもいろいろと分かります。

★ゆっくりはっきり発音する

ゆっくりはっきり発音することで理解しやすくなります。

★資料や図を活用する

ことばで伝わらない場合は、その場で図や資料などを活用しましょう。

★難しい単語や言い回しは使わない

例) 納付してください → お金を払ってください

参考文献

庵功雄(2016)『やさしい日本語：多文化共生社会へ』岩波新書。



英語で授業を受けてみましょう！

Hitotsubashi University Global Education Program (HGP)

「これまで学んだ英語を実際に使ってみたい」「海外留学を目指しているが英語に自信がない」「まずは日本で英語を使う経験を積みたい」「国際交流に興味があり留学生と積極的に交流したい」というあなたが探している場所が、HGPかもしれません。

HGPは、下記の5種類の科目群によって構成されています。

種類	対象者	教育言語	科目種別
①	全学生	英語	日本事情・世界事情関係科目
②	全学生	英語	社会科学分野の専門科目
③	英語を母語としない学生	英語	英語で行われる授業を受ける為に必要なスキルを身に着けるための科目
④	留学生	日本語	日本語教育科目、日本語日本文化特別科目

HGPの科目は、世界各国の協定校から本学に留学中の交流学生も多く履修しています。本学のなかで授業を通して国際的な交流を深められる場であり、幅広い視野を身につける機会としても多くの学生に支持されています。海外留学を目指している学生はもちろん、日本で英語を積極的に使いたいと考えている学生にも魅力的な科目が多数用意されています。

HGPで提供されている科目のうち①～③の科目群は、講義だけでなく課題や発表、ディスカッションなど、授業は全て英語で行われます。英語を母語としない学生を対象とした③の科目群は、英語で授業を受ける準備として活用できます。④の科目群は留学生のみを対象としていますが、①～③は所属学部を問わず履修可能です。

HGP科目群と科目例

種類	科目群	科目例
①	World & Japanese Affairs	Japanese Management B: Fundamental Structure and Management Philosophy
		World Affairs C: The Media and World Affairs
	Humanities	Special Topics in Liberal Arts
		Seminar on Humanities
	Business	Advanced Course in Marketing
		Interactive Course on Business Basics(Finance)
	Economics	Applied Microeconomics D
		Advanced Labor
		Economics I
	Law	Anglo-American Private Law
Introduction to Japanese Law		
International Relations	EU Law	
	Case Study in International security	
Sociology	Cultural Anthropology	
	Seminar on Global Issues I	
③	Academic Skills in English	Presentation Skills in English I
		Academic Writing in English II
④	Japanese Language	Basic Japanese
		Pre-Advanced Japanese

学期ごとに授業科目や履修条件などが更新されますので、以下のウェブサイトで内容を確認しながら計画を進めましょう。

最新のコースリスト、時間割、先輩の体験談などの情報はこちら：



<http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/hgp/index.html>

ランゲージコミュニティに参加してみませんか？

Language Community(LC)

ランゲージコミュニティ(LC)とは、本学の外国人留学生と日本人学生が異文化に対する理解を深めること、相互に語学を勉強しあうことを目的としたプログラムです。活動を通して各国の文化やライフスタイル、バックグラウンドによる考え方の相違を体感し、将来グローバルに活躍できるポテンシャルを、学生時代に育みましょう。

日本人学生のLC活用例：

- ・ 留学出発前に、現地情報や生活について知りたい
- ・ 外国人の友達を作りたい
- ・ 外国語を練習したいけど、授業が忙しくて進まない
- ・ 留学が終わったけど、留学先との関係を保ちたい



▶ 留学先の国と関係を強めたいと望む人、留学から帰国し、習ったことをさらに深めたい人、あるいは留学先はまだ確実に決めていないがとりあえず海外の友達と外国語を勉強したいという方にも、ランゲージコミュニティはお勧めです。

留学生のLC活用例：

- ・ 日本語がうまくなりしたい
- ・ 日本人の友達がほしい
- ・ 日本の文化や遊び、流行りものに詳しくなりたい
- ・ 日本人ならではの情報を教えてほしい
- ・ 就職活動のアドバイスが欲しい



▶ LCを通じて年齢・立場的に近い学生同士で情報や言語の交換をすることは、心理的な支えになり、授業を理解するための大きなヒントも与えてくれます。LCを通じて知り合った友人は、留学生活の成功のカギを握る重要な存在になります。

●●●●● LCはどのような活動なの？ ●●●●●

定期LCミーティング：

	英語と日本語	中国語と日本語
内容	参加者はグループに分かれて、日本語か英語で、自由に話をしたり、時にはテーマを決めてディスカッションをします。	中国語圏留学生と一緒に中国語を学べます。時にはテーマを決めて、ディスカッションをします。中国語が上級レベルの人もいれば、学び始めたばかりの人もいます。
時間	毎週水曜日 12:30-13:15(学期中)	毎週木曜日 12:30-13:15(学期中)
場所	国際研究館1階ラウンジ	
* 学生のLCコーディネーターがサポートしますので、初めての方でも安心して参加できます。		
* 各自お昼ご飯の持ち込みOKです。ご飯を食べながら、気軽に参加できます。		
* 入退場自由		

LC特別企画：

LCは不定期に国際交流の特別イベントを企画します。過去には、七夕やクリスマスなど季節に合わせたイベント、折り紙や書道など日本文化を紹介するイベントなどが行われたことがあります。留学生と日本の文化を再発見したい日本人学生も、日本の文化を実際に体験したい留学生も大歓迎です。

COMMENT...

2010年度にLCが開始した当初は、LCに登録した留学生と日本人学生がペアになってランゲージエクステンジをする形で運営されましたが、2014年10月からは、上述したイベント形式に変わり、一橋大学における国際交流の重要なプログラムの一つとなっています。

→LCコーディネーターに関心のある方は、LCの活動に参加して、先輩LCコーディネーターの学生から仕事内容について聞いてみてください。LCコーディネーターには、謝金(時給1,160円)が支払われます。欠員が生じた場合に随時募集します。

詳しくは以下の大学ウェブサイトを参考にしてください。

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/curr/support/lc.html>

お問い合わせ：留学生・海外留学相談室

また、LCコーディネーターによるFacebookのコミュニティ「一橋大学Language Community」、Instagram@hitotsubashilcより、最新の活動やイベント情報などをチェックしてみてください。



留学生の日本語学習サポートを してみませんか？

チューター制度

一橋大学では、留学生が日本語環境のなかで勉強・研究できるように、学生チューターが支援を行っています。大学の講義やゼミで使われる日本語の説明や、論文執筆のお手伝いなど、留学生のニーズに応じたチューター制度があります。

3つのチューター制度

1) 日本語添削チューター

日本語添削室(国際研究館1階)では、一橋に在籍する留学生なら誰でも事前予約なしで日本語の添削相談が受けられます。開室時間は、授業日の10:15~13:15, 14:15~17:15です。1回につき1時間まで、大学院生チューターが個別にサポートします。

2) 初年度チューター

一橋大学に入学した最初の年に利用できるサービスです。留学生が授業でわからなかった日本語についてや、日本語でのレポートの書き方などを、チューターが個別に指導します。初年度チューターは、留学生にとって心強いパートナーとなります。みなさんの周りに日本語サポートを受けたい留学生がいれば、一緒にチューター登録をしてみませんか？ チューターの登録は、教務第三係(東1号館1階・全学共通教育センター内)で受け付けています。

3) 修士・博士論文チューター

大学院留学生の修士論文や博士論文を、チューターが個別に添削します。チューターは、論文の添削を通して、留学生が自立した日本語の書き手になるためのお手伝いをします。論文チューターの利用期間は、論文提出前の3カ月間です。

区分	利用可能な時期	対象
1)日本語添削チューター	在学中いつでも 何度でも	日本語で書いた文章の添削相談を受けたい留学生
2)初年度チューター	入学1年目	日本語による履修サポートが必要な留学生
3)論文チューター	提出日の3ヶ月前~	修士・博士論文執筆のサポートが必要な留学生

- *1: 一般チューターは、留学生を対象に「専門科目」の履修をサポートするものです。日本語や英語など語学学習の指導や、就職活動のサポートなどは、謝金の対象になりません。
- *2: 修士・博士論文チューターのサポート範囲は、論文執筆のサポートであり、作業の補助は行いません。

COMMENT...



- ・チューター活動は、留学生と学生チューターが、お互いのニーズやスキルや専門にもとづいて、1対1の対面式で行います。決められた時間内でどのような活動を優先するか、二人でよく話し合ってください。
- ・チューター制度は、留学生が自立した書き手になることを支援します。そのため、チューターが一方向的に添削・校正を行うのではなく、対面でのコミュニケーションと協同作業を重視しています。

チューター制度について、詳しくは
ウェブサイトをごらんください：
[http://international.hit-u.ac.jp/
jp/curr/support/tutor.html](http://international.hit-u.ac.jp/jp/curr/support/tutor.html)

お問い合わせ
教務第三係

Tel : 042-580-9001



国際寮のサポート スタッフになりませんか？

学生宿舎スタッフ制度

学生宿舎スタッフは、本学学生宿舎において寮生及び寮に関するあらゆるサポートを、大学から選出された住み込みの学生スタッフが行う制度です。

●●●●●●●●●● 国際学生宿舎(小平) ●●●●●●●●●●

国際学生宿舎一橋寮(小平)には、一橋大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学の学生が生活しています。7つの居住棟は、大学・国籍・学年をこえて多様な国際交流の拠点となっています。部屋は、共用部屋、個室部屋、夫婦・家族部屋、障がい者用部屋などに分類されています。



区分	選出方法	役割
レジデント・アシスタント(RA)	各大学の学生支援課や国際課が選出	担当フロアやユニットの交流・生活支援及び運営+ 宿舎全体の運営
コミュニティ・アシスタント(CA)	一橋大学学生支援課が選出	担当フロアやユニットの交流・生活支援及び運営

国際学生宿舎では、70名あまりの学生スタッフが住み込みで寮生の交流や生活支援を行っています。レジデント・アシスタント(RA)やコミュニティ・アシスタント(CA)が、それぞれ担当するフロアやユニットを受け持っており、大まかに個室フロアはRAが、共用ユニットはCAが中心となってサポートします。

1) 小平レジデント・アシスタント(RA)

RAは、一橋大学、東京学芸大学、東京農工大学、そして電気通信大学から選出された学生スタッフで、寮生の生活支援や宿舎全体の運営をはじめ、大学や地域団体と連携する役割も果たしています。RAは複数の通年班や短期班などに所属し、それぞれ得意分野を生かして班活動を行っています。



「RA研修」

主な班活動：

- 通年班
 RAManager: RA組織のとりまとめ、大学や地域団体との連携
 広報班: HPやSNSの管理、運用
 イベント班: 寮生向けイベントの企画、運営
 - 短期班
 受入班: 新入寮生の入寮手続きやガイダンスの企画運営
 ウェルカムパーティ班: 新入寮生の歓迎パーティの企画運営
- * 上記のほかにもさまざまな班があります。必要に応じて班の編成を見直しています。

2) 小平コミュニティ・アシスタント (CA)

CAは、主に6人で共用するユニットの運営に携わります。運営という少し堅苦しく聞こえますが、フロアメイトと一緒に生活し、問題があったら話し合い、時にはフロアメイトの相談に乗ったりするというものです。少人数であるため、フロアメイトとより深い交流ができます。



RAとCAからのメッセージ

小平国際学生宿舎に住む寮生は全員、ISDAK (International Student Dormitory Association of Kodaira) と呼ばれる組織に所属します。現在ISDAKでは40以上の国や地域から来た600人をこえる学生たちが生活しており、毎日さまざまな場所で国際交流が行われています。このような環境は日本国内を探してもあまりないでしょうし、そうした環境で学生スタッフとして国際交流するという機会はISDAK以外ないでしょう。学生スタッフに必要なのは語学力でもリーダーシップでも計画性でもありません。しかし、それらのスキルは学生スタッフを経験すれば絶対に身につくと断言できます。国際交流したい人、スキルを磨きたい人、学生生活をより充実したものにしたい人、みんな大歓迎です。

いつか皆さんと一緒にISDAKで活動できることを楽しみにしています！



●●●●●●●●●● 国際交流会館(国立) ●●●●●●●●●●

国際交流会館(国立)は、大学の西キャンパス内に位置し、主に大学院生及び研究生の外国人留学生が生活する居住施設となっています。单身室のあるA棟、夫婦室と家族室からなるB棟があり、A棟の1階には、ウェルカムパーティーやクリスマスパーティーなどのイベントが開催されるCCホールやコンピューター室が完備されています。2019年4月の時点で、寮生の出身国は10カ国以上に及び、約70名の留学生とその家族が生活しています



2018年度 国際交流会館
クリスマス会の様子

国立レジデント・アシスタント(RA)

国際交流会館には、6名の学生(学部生、大学院生)がRAとして入居し、国際交流会館の運営や交流イベント等を積極的にサポートしています。RA業務には、居住者の交流の場を提供するための定期的なイベントの運営や担当するフロアごとの居住者ミーティングの開催が含まれます。また、学生支援課と会館事務室のスタッフの方々、宿舎アドバイザーの先生と連携して、毎月ミーティングをしながら、会館の居住者を様々な点からサポートしています。

適性チェック(どんな方が国立国際交流会館のRAとして向いているでしょうか?) :

- ・年齢に関係なく、仲良くなれる
- ・自分から気がついて、声をかけているタイプだ
- ・チームワークを大事にして、イベントなどを企画、運営するのが得意だ
- ・多様な文化的背景をもつ人々と交流することに意欲と関心がある
- ・柔軟性はあるほうだ
- ・市民の方とも連携して、居住者である留学生との交流を楽しみたい

学生宿舎スタッフについてのお問い合わせ

一橋大学学生支援課宿舎管理係

●Email: stu-ry.g2@dm.hit-u.ac.jp ●Tel: 042-580-8164
<http://international.hit-u.ac.jp/jp/curr/accom/raca.html>



キャンパスで国際交流しよう！

一橋大学生のための国際交流ハンドブック

2020年3月発行

編集発行：一橋大学国際教育交流センター・学務部
〒186-8601 東京都国立市中2-1

印刷：図書印刷株式会社

デザイン：ブルグラ・フィックス